

鳥獣害特集 によせて 鳥獣より

いくらおいしいものがあったても、怖いところは行きたくないな

最近、俺たちが里に下りて傍若無人のふるまいだかつて怒ってる人が多いけど、俺たちだって本当はビクビクもんなんだぞ。知らないところは、じつはあまり好きじゃないんだよね。

だったら何で畑まで下りてくるんだっていわれそうだけど、奈良県の井上センセがいつてみるみたいに、最近の里はどつても、「どーぞ、来てください」っていつてくれるように見えるとこが多いんだな。近づいても草がぼつぼつで隠れるところも食べても誰も怒らない。家の裏のお墓には「お供え物」っていつらしいけど、俺たちのためにおいしいエサがいつも用意されてるし、生ゴミもそこらにポイポイ捨ててある。第一、昔は里に人がたくさんいてなかなか近づけなかったもんだけど、最近はおまり人も見かけないもんな。追われることも少ないから、ついついねえ。井上センセはこついつ現象を「知らず知らずの餌付け」だつていつてたけどな(ハ〇ページ)。

俺たちは頭いいんだぞ、何やつたつて「慣れる」のは当たり前

「何やつてもダメだー」つて、ひどく絶望してる人も多いけど、笑っちゃっよね。そういつ人は、「これで完璧！絶対来ない」つて方法がどこかにあると思つてるんだろね。俺たちだつて人間と同じで「学習」するんだから、人間が工夫すればした分だけ、俺たちも利口になるよ。いろんな二オイとか、光るものとか、音とか振動とかで脅してくれるけど、慣れちゃえば全然OKだよな。

でもね、だからつて、「その方法は全然効果がなかった」わけじゃないんだ。



一年だろーが一月月だろーが、とにかく「慣れるまで」は、それなりに怖い。だから、一つやってダメだったからってあきらめたらいかん。いずれ効かなくなるのは当たり前と思つて、次々新しい方法を考え続けなくちゃ。さっきの「餌付け」をやめることも含めて、俺たちにくつ「嫌がらせ」を組み合わせられるかが勝負じゃないかな。

それから、俺たち一頭一頭、いや一羽一羽にも個性があるつてことも、たいがい忘れられてる。人間だつて一人一人性格が違うだろー？ 甘党も辛党もいるし、地域によつて言葉も習慣も違うし……。だから「あそこの畑では効かなかった」という方法でも、こつちの畑では効くつてこともよくあるんだよ。「何やつても効かない」とかいつてあきらめるのが、いちばん俺たちをのさばらせることにつながるね。「あそこはいつも、なんか戦う気にあふれてるなあ」つて畑は、やつぱそれなりに、行くのにプレッシャーがかかるぜ。俺たちの戦いは、けっこう心理戦かもな。



えっ!? 「増えすぎたイノシシは捕って食うべし」!?

ところで最近、イノシシ被害の多い県で「イノシシを捕つて町の特産品として売り出そう」つて動きが盛んなんだつて? いやあ参つたなあ。確かにエサがいいせいか、里に下りた鳥獣はスゴイ勢いで増えてるもんね。淘汰しうたつていうのも、自然の掟さだめつてことかなあ。

しかし、人間もなかなかやるもんだよなあ。俺たちの被害をバネに地域おこしにしちゃうつてんだから、ちえくらべも、そこまで行くとおもしろえやねえ。「夏場のイノシシ肉のおいしい食べ方」とかの研究もしてるつていうじゃねえか(六八ページ)。

昔から、人間と山の鳥獣は戦いながら共存してきたわけだよ。今、ちよいとそのバランスが崩れちゃったのが、お互いの不幸だな。バランスのいいところで落ち着くのが、人間にも鳥獣にもホントは一番いいんだよな。

